

【音楽】

教科書の枠にとらわれない授業プラン

～ClassPad.net の各種ふせん・授業支援機能を活用する～

身体を使ってリズムを表現する授業

ボディーパーカッションにより、リズムの重なりと変化を体験的に理解する。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：身体を用いたリズム活動を通して、拍や音価の理解を深めるとともに、リズムを構成・表現する力を育成する。

生徒向けの目標：音価や拍の仕組みをもとに、グループでリズムを工夫して作り、身体を使って表現できるようにする。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・生徒の集中力アップ：リンクふせんから動画鑑賞をすることで、視覚的イメージにより楽しく授業に興味を持ってもらう。
- ・授業準備の時短／効率化：事前にリンクふせんや課題、例題を用意することで、スムーズに授業を進行することができる。
- ・探究学習促進：補足として提示する演奏動画についても、リンクふせんで共有することで、生徒が自宅で鑑賞することができる。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

【目的・概要の説明】

ボディーパーカッションを通じて、音価や拍の理解を深め、体を使ってリズムを表現できるようになること

目的・概要の説明

ボディーパーカッションを通じて、音価や拍の理解を深め、体を使ってリズムを表現できるようになるという授業の目的・概要を簡単に説明する。

テキストふせんで目的・概要を視覚的にも示す。

step2

【オリエンテーション・音価の復習】

次のリズムを手拍子で叩いてみましょう！

リズム提示・音価の復習

ボディーパーカッションの導入として、提示したリズムを手拍子で叩くとともに、音価の復習・確認を行う。

テキストふせんを使用し、リズム課題を提示。

step3

【ボディーパーカッション演奏動画の鑑賞】



演奏の鑑賞

ボディーパーカッションの演奏動画を視聴させ、関心を高めるとともに、本時の学習内容について理解させる。

リンクふせんを使用し、YouTubeでボディーパーカッションの演奏を鑑賞する。
自宅でも見返せるよう、リンクふせんに全員に配布する。

step4

【ボディーパーカッションとは】

自分達の身体を使って音を出し、リズムを表現する音楽活動のこと

ボディーパーカッションの解説

ボディーパーカッションの特徴について説明し、身体が楽器として機能することを理解させる。

テキストふせんを使用し、ボディーパーカッションについて解説する。

step5

〈グループ活動：ボディーパーカッションで演奏してみよう〉

グループ分け・活動内容の説明

5～6人のグループで4小節のリズムを作成させる。リズムの中には、パートが分かれる部分とユニゾンの部分を取り入れさせる。
さらに作成したリズムをボディーパーカッションとして構成させ、練習を行ったあと発表をする。

ふせんを使用し、活動内容・リズムの模範例をわかりやすく提示する。
併せて、リズム作成用のふせんに配布し、リズム作成に活用させる。作成したリズムは、1グループで1つのふせんにまとめ、教師に提出させる。

step6

【グループ活動】

〈やること〉

- ①4小節のリズムを作る。
→ふせんにまとめて提出
- ②パートを分けるところと全員で揃えるところを作る。
- ③リズムを身体で表現する。
- ④練習する。
- ⑤発表する。(次回の授業で)

グループ活動

step4で説明した創作活動・練習をグループで行わせる。

テキストふせんでやることをプロジェクト等にして示しておく。練習時にカメラふせんを用いて練習の様子を撮影させ、自宅等での復習、練習ができるようにする。

step7

♪今日学んだこと・演奏してみた感想等を以下にまとめましょう

まとめ・次回予告

ワークシートにて、今日学んだことや感想を記入する。
次回の授業では、冒頭で練習時間をとった後、発表をすることを伝える。

テキストふせんにワークシートとして配布。
生徒はふせんに手書きで記入後、教師に提出。

step8

【参考・補足】

プロの打楽器奏者によるボディーパーカッションの動画です。
是非見てみてください！

参考・補足

模範となる演奏として、高度な演奏動画を補足として紹介。

補足として、リンクふせんを使用し、YouTube の演奏動画を全員に配布。